

電子カルテの導入がもたらす 業務効率化と未来への期待 生産性を向上させるICTのチカラ

丸山幹生 [まるやま・としお]

介護老人保健施設アンダンテ伊集院（鹿児島県）
事務長

はじめに

アンダンテ伊集院では、電子カルテを導入して7年が経過し、職員のお大半が入力に慣れ、現在はなんの支障もなく業務を行っています。公益社団法人鹿児島県老人保健施設協会の事務部会において、「記録の電子化」については会員施設のなかでも考え方や運用状況がさまざまであり、中々着手できていない施設が多いことがわかりました。今後、さらにICT導入は加速していくことが確実であり、取り残されないためにも導入の手順等を学んで記録の電子化に取り組み、すでに定着している施設にはメリットとデメリットを伝える機会を設けたいとのことで、私に講話の依頼がありました。

この講話の後に、記録の電子化に興味をもった施設が増えたと鹿児島県老人保健施設協会から報告をいただき、また講話内容をもとに今号の「老健仕事人」の執筆を依頼されましたので、導入前から現在に至る経緯を振り返ってみたいと思います。

施設紹介

当施設は鹿児島県薩摩半島のほぼ中央に位置する日置市ひおきにあり、医療法人健誠会を設置主体として1998年1月に開設し、今年で25年になる独立型の施設です。

2019年6月から超強化型を維持し、「利用者・職員・施設それぞれに何が最善かを考えて行動する」を行動指針に掲げ日々、取り組んでいます。

振り返り

開設当初は紙カルテを用いて業務を行っていましたが、カルテの管理場所が2階にあり、1階と地下1階で業務を行う部門の職員は2階に行かなければ情

報が得られない状況でした。また、カルテを他者が使用していて見られない、癖字の解読、本来綴られている所に情報が綴られていない等で確認に時間を要していたこともあり、7年前の2016年4月より電子カルテを導入することとなり、導入前～導入後にかけて下記の取り決めを行いました。

- ① 施設の担当者を決め、システムの全容を把握する。
- ② 紙カルテでの問題点が電子カルテで改善されること、電子カルテの機能を用いて業務の効率化が図られ負担軽減につながることを職員に説明する。
- ③ 電子カルテはメリットだけでなく、パソコン操作に不慣れな職員は慣れることに時間がかかる等のデメリットもあることを職員に説明する。
- ④ 各部門のシステム担当者を任命する。
- ⑤ 操作に慣れるまでの約半年間は、施設の担当者が各部門に毎日顔を出して操作説明を行い、一方で現場の生の声をメーカーに伝え、改善をお願いする。

これらの対応が功を奏し、職員の理解と協力を得られ大きな問題もなく電子カルテを導入できました。

導入できたもう1つの要因として、施設管理者の理解を得られたことです。導入前のパソコン台数は20台でしたが、その後は必要に応じて稟議を行い、現在は36台となっています。それ以外にも、スマートフォンで業務が行えるソフトも導入したことで、さらに業務の効率化が図れました。

導入して8か月後、職員に電子カルテを導入してどう感じているかのアンケートを実施しました。回答として「記録内容が見やすく、いつでもどこでも確認ができ、情報収集がしやすくなった」「見たい情報がすぐに探し出せる」「紙カルテのように場所をとらず、記録時間も短く効率が良くなった」などの意見があり、約8割の